

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部



令和八年六月度 入賞句一覧

投句数 千二百五十九句

八木 茂都子 選

特選

お父さん麦茶を飲んで生き返る

大垣市

田中 涼音（小六）

年々、地球温暖化のせいなのか、春なのに夏日になる日が増えてきています。そんな日、外から帰って来たお父さんが、息をつく間もなく一気に麦茶をごくごく。「あー生き返った！」そんな声が聞こえてきそうです。麦茶で生き返ったお父さんを傍で見ている作者の観察眼と、少し安心した気持ちも伝わってくる、家族の「コマ」を上手に切り取った一句となりました。

でかいたきおおきなおとがなりひびく

大垣市

まつおか こうたろう（小二）

大きな滝の威風堂々たる姿を前にした素直な気持ちたちが伝わってきました。止むことのない滝のとうとうと落ちてくる音は、取り囲む山へと響き渡りますが、きつと作者の中にもどうとうと鳴り響いたことでしょう。滝のある深閑とした山の様子も見えてくるようです。

五月雨やW i l f i弱き窓の際

大垣市

市川 椋一（中二）

梅雨の時期に降る雨のことを俳句では五月雨という季語として用います。五月雨の止みそうにない窓際に座って、窓を打つ雨の雫の流れゆくさまを見ながら何を思っているのでしょうか。W i l f iという目に見えないものと雨の対比から、W i l f iのぎりぎり届くところにおいて、作者が生きる虚実の境目で揺れる姿が見えてきます。

秀逸

夏の川流れゆるやか港町

大垣市

武井 梨鈴（小六）

よるのほしてもちはなびがまいあがる

大垣市

中村 安香琳（小四）

風ふいてせなかをおすよふじの花

大垣市

悪七 悠理乃（小五）

ヒマワリは応えん団長お手本だ

大垣市

渡部 美柚（小六）

さくらちり水のみやこはみどりいろ

大垣市

名和 千夏（小六）

たんぽぽはくらくなったらしよんぼりと

大垣市

おおしま かずき（小四）

七変化ひとつひとつが光ってる

大垣市

木村 心音（小五）

冷たくて下半しんだけ初プール

大垣市

中村 朱里（小五）

つゆ入りだくもがぶつかりあめがふる

大垣市

にしわき とうま（小三）

スイカたべいつものげんきとりもどす

大垣市

中島 悠翔（小三）

入選

夏がきた楽しいけれど虫きらい

大垣市

伊藤 壮良（小六）

ひまわりがぼくが主役だと言っている

大垣市

安田 優芽（小六）

夏の風木がゆらゆらとおどつてる

大垣市

田中 夢乃（小六）

春の昼給食のはいぜんめいじんに

大垣市

役田 陸（小六）

おかあさんかえるをみるとさけびだす

大垣市

まえしま ふうか（小二）

おむすびがころりんふじのやまわらう

大垣市

かわい とうま（小三）

はるのかぜいろとりどりのはなゆれる

大垣市

高橋 奏太（小三）

すいかわりわたしがさいしよにたべちゃった

大垣市

松原 すず（小四）

金魚をねのんびり見ながらおもいごと

大垣市

岸部 世來（小四）

カブトムシたたかったあとひとやすみ

大垣市

西本 航大（小四）

夏の海グングン泳ぐ水しぶき

大垣市

小寺 優（小六）

夏の日がきらきらみんなをうちつける

大垣市

浅野 友花（小六）

じいちゃんをつくったトマトかぶりつく

大垣市

田口 奏羽（小六）

青空を見てみたらちようちよが手にとまった

大垣市

はやし だいき（小二）

こどもの日おやにたくさんあまえるぞ

大垣市

姉崎 心咲（小四）

あめんぼがすぐでかくてびつくりだ

大垣市

かけひ 爽（小二）

ねこのこいかわべあるいてこいをする

不破郡垂井町

岡田 流空（小六）

青空へつきぬけていく入道雲

大垣市

増田 愛璃（中一）

ネットゆれサッカーボールと汗ひかる

大垣市

たなか あやと（小三）

なつのうみきらきらひかるほうせきだ

大垣市

たち りんか（小三）

選者吟

どんどんと膨らんでくる蟻の列

茂都子



小中学生の部